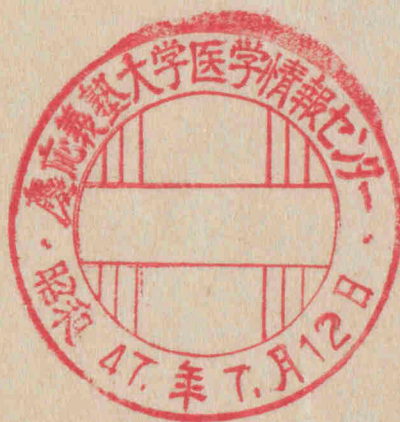
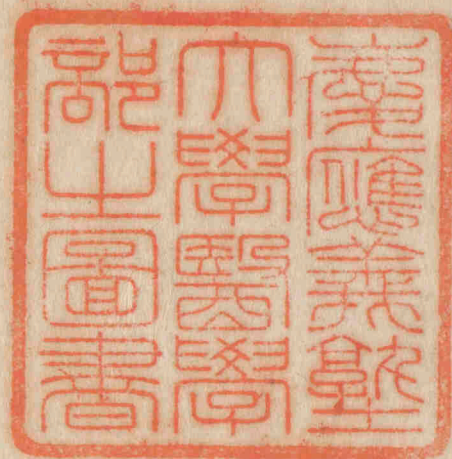


牛痘達並願覺

493.82
Gy-2

No. 727



富士川文庫

2881

文政十三年庚寅正月廿二日蒙痘家之命

口達

長興俊達江

種痘之儀於市領内極別重寶之業柄ニ
依而其方儀痘家は仰付い案後年ニ至
顔持多之振ておん

寅正月

天保三年壬辰二月口達

口達

長興俊達江

痘瘡之儀是酒湯廿日お清清水屋江一
旨引後より山下政に振てお極重に及

依乳古田、種痘之場所あり、依之以來種痘
自痘有右之日数、不れ拘、其方痘之種、重見
斗山下之日数、増減、其儀不苦、尤清水屋、引
移、日数あり、是より通、此儀お達、

居二月

嘉永二年己酉七月、捧於古田山牛痘試之願

口上費

一此第一、蘭人牛痘種持渡、台早速於長崎相
試、其儀傳、勿無、其速、而座、蘭通詞、西吉、其
家内、其公、至極、輕安、相仕、通、其因、人、其無、合

未、依、之、御、差、支、不、其、在、其、得、未、ハ、難、於
古田山相始、度、其、在、其、中、思、才、其、後、在、願、牛痘
未、由、其、儀、其、尚、以、別、紙、其、其、座、申、上、其、以上

七月廿二日

長与候達

以別紙申上

牛痘種、元來牛、出、來、其、一、種、輕安、其、種、其
其、種、を、人、其、移、其、者、其、其、其、及、人、其、人、其、傳、植
其、牛、痘、其、性、其、其、其、不、申、其、最、前、牛、痘、其、通、至
極、輕安、其、其、其、其、後、蘭人、其、其、相、限、其、不、申、近、來
清人、黃浩川、其、申、其、其、其、右、牛、痘、其、其、傳、其、其、其、

万人以上相試以る事人々怪我無所至今心感
 其行由誠以無此上重寶之仁術を而座
 得志不取敢於右田山相試度事存心且第
 一乳母に植る乳史無事存心位傳染と申
 儀無事田付るを此等於右田お給ひるを山目
 付等と被山伏等御立不ら下りるも中候と安
 儀より使尤大被等儀ハ是とて通ふるを
 於主事守つ申此儀延引供ひる者種徳成
 儀公難耳奉存り日々思事紙を頼通被
 成下而欠り候儀奉頼以上

七月廿二日

同年九月廿一日捧左之願

口上

最前申上牛痘於右田山相試い處牛痘書中
 論説而座通底候一切相達供儀無事第一
 深傳不供儀此等朝長幾方あ母子共々山に
 母に種まゐる乳子以下苗は其候にあら
 試い處母子常例と通致痘仕最早速に
 供得や乳子以下感更供い乳子相見不申い尤
 事人お試ひる越成澄と難申上儀に事得共

元來牛痘之儀者一種之善痘多一針種は
痘者一點其針數は應る為痘は其體中
針數の外一點もお救ふ程の痘性も且
其外書中論説は事々病人引合比例は
悉皆符合は得る傳傑は儀も存は付る
家々自定も下苗はる散痘症は申心也
無き其後御願申上度も存は得る一統人氣
も相拘は得る是と致來の種痘を山初り
大傳五十年前は事々申下山は尤種痘料
五百文を御願ふ今度牛痘は次申下苗初日

三日より見點ははる夫より順次は十日に
はる事相満申上度七日後十日に相清は
一統安心ははる存は左に得る都合二十三日
より下山ははる宜然も存は種痘料は
或る相定はる窮民は扶助は可成る存
は存御願はる儀も存は得る右に自
是より下山ははる成下御免は御願
儀上

九月坊一日

同年十一月十一日又捧願

口上覺

先度中上牛痘傳染不仕儀世上追々新
仕未痘者問之使仕未仕儀必老分
向公及俸仕俸相見不中且種痘望之向
先月五日増人数増多廿三日種日五
更下苗仕然處廿九日種日種痘望之向江
串松系廿人餘近在市中より拾得人前
積来居之處牛痘儀不遠自宅より下苗仕
様御免お成り趣下風説仕先見合由
當自二成大半望山不仕省日種日四人下

苗仕時節初生七拾才と男女幼る人解安物
種痘お満ちる人其次お増下管之座
以處即お減低時分柄を以て右風説
時節お待張る全人氣お用い儀と事仕
家一統右に據合座の得志先度在申上
以通家之自宅より下苗仕度存候に
不為仕願之通成下御免お候下
幸願以上

十月十日

同年十二月廿一日又捧願

以上手扣

先達より願ひ牛痘自定より種法仕り儀
願通し後下 御欠り得る所領内中不旨
種仕廻り申す存り得る種仕廻り迄る者尚
又種繼仕り首痘苗後より儀より種仕
筆数書より存り尤人より日生仕痘苗者隣
單工費種切り儀より問及り存り得る
元來人より人江移種り種法より所存り得る者
方お陽居り場所より下り届り下り一日種
切相成りより者重寶より痘苗紙以殘念より至

多存り自り首種り向る年七歳以上限り仕
先一應種仕廻りより七歳以下種り首者所領
内中種法仕り返る者何人種痘仕向り一々年
中出生仕り人数より多少を以て十月何人死
急度嚴重者所定より中より一痘
仕り死傷仕り者より存り存り存り生痘
真假より二心より存り存り存り存り防
お成りより付流り所存りより再度感更
仕儀より所存り依り唯種法相心得り迄る者
真假より差別相辨り不申授り種法仕り者自

然再瘧之羅即座公自相聞公人氣於又五損
且第一人命之大事二公座公同右直後之荒
廉別後相記差上四言以上

十二月廿百

口上費

牛瘧傳染不仕儀世上知仕人氣也嗣
自宅より牛瘧種仕度後多願に費方一
應天行瘧之苗を以試種仕上格て下之
所仰付り杉木村天行瘧之苗を以中尾良
太郎娘お米私孫女十才私家来男十八才右三

人試種仕霞亭人志針跡三百位血點相
又瘧之得き其後多消申人志千及腰
相成ぬ三百より枯申尤種後十二百之間
朝夕診察仕得き感文告梯子聊相見
不申此後申上以上

十二月廿百

牛瘧真の假之差別

真牛瘧を種て後三日を種て所と蟻
咬のおとく紅の点おあつれいおえき
を四日おの位をあつれい

14
傷瘰癧を種くす翌日よりあらわれん
真瘰癧を五日位まで瘰癧のからん平くを外
廻り却るゆへにさうお成い

傷瘰癧を瘰癧のからんくすけお成い
真瘰癧を六日より十二日迄は瘰癧を散
しんふより早く散し咲く散しと輕重の
定まりに依る

傷瘰癧を契サ散しわす十三日散しは甚
輕く真瘰癧は解しん

真瘰癧八日より十日の際に瘰癧と平く月
日の暈の如き形を紅の血色あらわれ
其血をさきよりあてきれば平く平く
暈の消へるを散する時のわく散す
散散しん

傷瘰癧を瘰癧と平くを散しは甚
間にあるも三日四日の際を其の
あよりちく打散しした散しん
解散するも甚速なり

真瘰癧を十一日迄は水を合はるあり
傷瘰癧を瘰癧を散しは速く膿を成し

貞應を十九日二十日とて致結痂に連成あり
も十四日十五日にお及びん

依症をとり依をて板よりん或を問に腫
物の根を成膿汁泄し何日も瘡明き
ものあり其瘡を右根の底多て多
少瘡あり

以上六ヶ条

同三年庚戌正月廿三日賜口達書如左

口達

長興後達江

至方傳來し牛痘付保山致趣あり
付如願今度南領分一統牛痘居成りぬ
極に策頼轉無き根よりん尤に村々
牛痘種付に医師を至方教諭添籍を
以節々願を至し且又種料に御用
出清差圖標に無き根急度よりん

戊辰月

同日如左被達尚藥医

口達

南七五江

今度長与依達傳來し牛痘南領分一統

居成は五極の尤牛痘に其儀を差別す
之儀を問ひ付牛痘種付の医師者依連
承届の上同人添給を以て願ひ至に振所
医師者并村医中にておこなふ

戊辰月

同月廿八日捧手扣書

以上手扣

牛痘付保不仕の従お問ひ自御願ひ一統居成種
法依根め願ひ仰出難有仕合有存の右植方
之儀者先達る在申上へ通す此先七才以上種

法仕七才以下者相残置る迄轉不仕の根有要
有存の得た如何根在に模化を隠植れ仕合有
自然存意お届る儀者難斗を依付自
宅を種法依の儀お禁村に於て庄屋種法依
振り仰出村役より急度申付り一切敷
重初座より有存の且種料式米五石置る難
滋の向に施行可仕る向に急度申付りて村
役より急度謝儀を致し一統に勝事可宜
有存の時限を同人以上

乙卯月廿八日

手抄別紙

山縣中四郡仕人等種取古儀に基て田下儀
属より牛二頭取之向て七日以前下田下男
内私宅に坐せ種法仕り振仕度と存心市中
私宅より種法仕度と存心け取る向て以上

四月廿日

翌二十九日如左被達于兩郡奉行

口達

今度牛痘居成乃仰出付村々儀に於て庄屋
種付了り且又種料に依りて三石文分式米迄村々

役人より差廻概々無き振るおるに

一村村々御迄者并村々より種付ありの得者

長興後迄にお新度向て勝手いり

石を通り仰出の案付方と配方にてある

成心月

同年二月廿五日又捧願

口上覽

此の牛二頭種法年七才以上先一頭植仕廻り
七才以下種法仕人等御領内種法仕人等
何人又種法仕人等一ヶ年出生儀小使と多少

を以て月何人罷る由定種法仕度候事上
 の數願と通り仰出候種法仕度早
 中八分植仕廻相成隣村等七分位植付
 場所等由種法得て耕作の時迄成少延
 引仕る候然處種取候儀唯今迄者差
 差間儀毎年得共今少植仕廻成迄
 おる向人少く成る遠近種取由定戸數
 甚多事致仕る儀先年痘家象
 仰種痘候儀者至實に術者頼轉仕候
 事あり方所仰付不肖に私面目に難有

候事仕る今度牛痘候儀者別々至實に
 存り付る自然痘苗間欠等法儀仕る
 誠心不意に仕る入の事仕る依之私屋
 敷内江長屋出来仕杉原より三浦と八ヶ村
 小見順三人宛苗置種法抽り仕度仕る
 尤種法二日交代仕七日八日植進度真儀
 又苗仕上由定仕右長屋、痘種不仕
 根仕由外村仕者勝手官時分種取仕種
 法得る出来候事仕る右長屋并夜具
 外器物等由御陰氏より牛痘種料云々

以振乏任以得食飯料之儀伊分難任心慮以付
 時多病何處有食得大飯料文右公村の
 助力仕是の振乏任下御差圖以之私瘡家ら
 仰付是の御事公御申律之一端与食存子孫
 永之難有仕食可事存公作思付此後成下
 御免の振乏任成傷事願以已上

二月坊五日

同年三月十九日蒙 許可

同年同月廿二日月番用人觸達于横目手代自三浦至松原
 之廻札如左

長与俊達傳來之牛痘追々村方過半植付
 可也濟の要永年之儀以得者自然痘苗
 間欠等お成りる者無中意趣を以て未同
 人屋敷内は長屋お建松原より三浦と八ヶ村
 之小兒三人お苗置種法拙り仕度与願之
 通也濟の依之右者病人在公人之飯料一
 年一匁三日米五合隙宛割合する上名は極
 り桑若支配村中足輕半之者在は其後可
 相達以上

三月廿二日

